

## 平成24年度 事業計画書

### 1. 基本方針

平成20年度に短期大学部は短期大学基準協会において、平成21年度に大学は日本高等教育評価機構において、第三者評価を受審し各々合格認定をいただいた。また、平成22年7月には文部科学省の学校運営調査委員による実地調査を受けた。

昨年度には前理事長の急逝という不測の事態に直面したが、役職員と全教職員の協力体制の下、これを乗り越えて更なる学園の発展を図っていく決意である。

現在、文部科学省高等教育局、調査委員会の指導の下、平成23年度を初年度とする5年間の経営改善計画を立案し実行中であるが、学園の持続的発展のためには、当該局からも助言を受けたように中長期的ビジョンを確立する中でさらに短いスパンである来年度の計画を立てねばならないと考える。

もとより学園経営の本質は充実した教育と研究にあり、建学の精神に基づき教職員による熱心な教育指導等を行っているが、近年は、その成果の一つである卒業後の進路について、学生・保護者ともに一層強い関心が寄せられるようになった。さらに、この卒業後の進路の内容が、学生の募集に大きく影響を与えるのが現状である。したがって、学園のさらなる発展のためには、充実した教育や設備環境による優秀な卒業生の輩出によって大学の社会的評価をさらに高め、それが学生の志願率の向上に結実するというプロセスを定着させていくことが不可欠であり、この目的実践のために経営改善計画の着実な実行が必要であるし、また将来性を視野に入れた改組転換など、さまざまな戦略的な運営も積極的に行っていかなければならないと考える。

今後、高等教育を取り巻く環境は、さらに厳しさを増すことが予想される。今年度も以上の状況を十分踏まえた上で、役職員や全教職員が、強い責任感と意思のもとに自らが学園運営のために成しうる役割を自覚し、もって充実した教育と学園の健全経営に努めるという課題を推進していきたい。

なお、本学園はこれまでも地域貢献を積極的に実践してきており、従来通り地域の住民や地域社会から認められ、高く評価される学園となるよう引き続き関連事業に邁進していく方針である。

以上を踏まえた平成24年度の計画は以下の通りである。

- ①学生募集体制の更なる充実により定員確保を図る。
- ②適材適所の人材配置を行い、能力向上と組織の活性化を図る。
- ③就職支援体制の更なる充実を図る
- ④引続き収支の見直しにより強固な財務基盤の構築を推進する。
- ⑤将来の市場ニーズに合った教育体制の検討を進める。
- ⑥立案した経営計画目標数字の達成

学園の設置する学校及び定員は下記の通りとなる。

東海学院大学

・大学院	人間関係学研究科	臨床心理学専攻	入学定員	7人	収容定員	14人
・健康福祉学部	総合福祉学科		入学定員	80人	収容定員	380人
	食健康栄養学科		入学定員	80人	収容定員	320人
			計	180人	計	700人
・人間関係学部	心理学科		入学定員	110人	収容定員	480人
		(3年次編入学定員 20人)				
	子ども発達学科		入学定員	80人	収容定員	320人
			計	190人	計	800人

東海学院大学短期大学部

・児童教育学科	幼児教育専攻	入学定員	100人	収容定員	200人
	ジュニアスポーツ教育専攻	入学定員	50人	収容定員	100人
		計	150人	計	300人

東海学院大学附属、東海学院大学短期大学部附属

・東海第一幼稚園	1年保育	115人
	2年保育	115人
	3年保育	110人
	計	340人
・東海第二幼稚園	1年保育	55人
	2年保育	55人
	3年保育	50人
	計	160人

## 2. 教育、研究における重点事項について

### ① 東海学院大学

- イ 大学機関別認証評価の受審結果（認定）への対応・改善
- ロ 臨床心理士指定大学院実地視察の評価への対応・改善
- ハ 平成25年度実施予定の教育課程の改編に向けての整備
- ニ 単位の実質化に向けてのCAP制導入のための整備

- ホ 低年次を含めたキャリアサポート体制の充実
- ヘ 地域の学習拠点としての附属図書館の整備及び公開講座並びに東海えほんの森の運営の充実
- ト 各種学外実習の質的向上に向けての実習教育研究センターの活動の充実
- チ FD・SDプログラムの充実
- リ 高大連携の充実
- ヌ 入学前教育・初年次教育の充実
- ル 国際教育センターの整備と活動の推進
- ヲ 産学官連携の推進
- ワ 地域食育サポートセンターの活動の充実
- カ 教職課程の整備と教員免許更新制への対応
- ヨ 大学間連携コンソーシアム岐阜との連携強化
- タ 学園内連携、第一幼稚園、第二幼稚園との連携
- レ 社会的貢献活動の活性化ならびに地域社会と協働した学生の人材育成
- ソ ぎふ清流国体、ぎふ清流大会への協力・支援の実施

## ②東海学院大学短期大学部

- イ 第三者評価結果に基づく指摘事項の改善
- ロ 広報の充実
- ハ 入学前教育の実施
- ニ 産学官連携取り組みの充実
- ホ 春川教育大学との学術交流の充実・拡充
- ヘ 高大連携、地域貢献の充実
- ト 科目等履修生の受け入れ枠の充実・拡充
- チ 教員免許更新講習の企画及び実施
- リ FD・SD講習の実施（四短合同）
- ヌ 新学習概算指導要領の公布にともなう教職課程教育の見直し
- ル 四短一体化のための学内組織等の統一検討  
事務局組織・規程整備、生涯学習センター、委員会組織の統一検討
- ヲ 実習センターの開設（四短合同）
- ワ 子育て支援センター（あそびの森）の充実・「ネイチャーあそびの森」実施（四短一体での取り組み）
- カ 生涯学習センターの充実
- ヨ 防災体制・危機管理体制の充実
- タ 50周年記念行事の検討
- レ 同窓会組織の活性化と寄付金募集に係る事業の準備
- ソ 昭和時代の卒業生データの電子化
- ツ ぎふ清流国体（第67回 国民体育大会）・ぎふ清流大会（第12回 全国障害者スポーツ大会）への協力・サポート

ネ 大学教育推進プログラム（補助金）申請準備

③ 東海第一幼稚園

教育・研究における重点事項について

1) 教育方針

- イ 豊かな自然や広い運動場でのびのび育つ子供を目指し、「よく聞き、よく見て、よく考える子」、「思いやりのあるやさしい子」、「じょうぶでひとりだちできる子」
- ロ 子どもたちが、友達やその周りの人達との関わりを深め、いろいろなことを感じ、考え、思いやりの心が育つようにと保育内容を検討していく。

2) 主な年間行事

- イ 1学期：家庭訪問、遠足、保育参観、個人懇談、お泊り保育、夏祭り、子育て支援（年間を通じて）
- ロ 2学期：清流国体開会式参加、信長祭り参加、運動会、大学祭参加、作品展、遠足、もちつき大会、お楽しみ会（クリスマス）
- ハ 3学期：人形劇、節分会、個人懇談会、発表会、お別れ遠足、お別れ会

3) その他

- イ 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科、東海学院大学短期大学部児童教育学科との連携による、子育て支援等の社会的活動を実施する。
- ロ 未就園児教室「ちびっこ広場アイアイ」の遊びの会の充実、園庭開放や各種行事に地域住民の参加を積極的に呼びかけていく。未就園児を対象としたイベントを開催する。短大・児童教育学科専門講師の協力を仰ぎ、その他外部講師を登用する。
- ハ 東海学院大学地域サポートセンターの食育支援による、「食育」及び給食内容の充実を図る。
- ニ ダイレクトメール、新聞折込、ポスター掲示、ホームページ、あそびの森、東海えほんの森などによる様々な方法を展開し、園児募集活動を実施する。また保護者（在園・卒園児）の協力も得て、園児募集活動を推進する。

④ 東海第二幼稚園

1) 教育方針

- イ やさしい子の育成  
友達や先生とかかわって遊ぶ楽しさを味わい、豊かな心を育てる。
- ロ じょうぶな子の育成  
伸び伸びと体を動かして遊び、身体中で表現する楽しさが分かる。
- ハ 考える子の育成  
身近な環境に親しみ、感じたことや考えたことを豊かに表現できる。

## 2) 主な年間行事

- イ 1学期：家庭訪問、遠足、ふれあい参観、陶芸教室、個人懇談、お泊まり保育、保育参観、歯科・内科健診
- ロ 2学期：運動会、遠足、作品展、クリスマス会、餅つき、親子守口大根収穫体験、個人懇談、いもほり
- ハ 3学期：ふれあい参観（凧あげ）、鬼見学、豆まき、学習発表会、お別れ遠足、お別れ会、保育参観

## 3) その他

- イ 携帯を使ったメールシステム『E通信』を活用する。
- ロ 在園児には、行事の写真を添付し様子を知らせる。
- ハ 未就園児には、催し物の情報を知らせる。
- ニ 各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布する。
- ホ 毎月の園だよりで月の予定や、毎週の学年だよりで園児の姿や保育内容を知らせ、保護者との共通理解を図る。
- ヘ 年間を通して、子育て支援をしていく。(延長保育、預かり保育)
- ト 子育て相談員の資格をとり、色々な悩みに対応できるようにする。

## 3. 学生・生徒の募集について

### ①学生募集活動の状況

平成22年度学生募集活動の結果として、平成23年度4月の四大入学者数は、前年実績を26名上回り290名の入学者を得たが、370名の定員確保に及ばない数字であった。定員確保のための平成24年度入学生のための学生募集計画は、より効率的で効果的でなければならぬことを入試広報部員に周知徹底し、高校生と直接対話ができる機会をより多く計画し、会場ガイダンス、校内ガイダンスへの参加を積極的に行った。

その結果、四大部は前年比30名前後増加する入学者を得ようとしている。また短期大学部は、ジュニアスポーツ教育専攻を設置して2年目を迎え、認知度を高める広報を展開し、短期大学部全体として前年比、15名弱の増加を見込んでいる。

特に18歳人口の減少や名古屋への流出拡大という環境、経済状況が依然として混迷状況の中での学生募集であったことを考慮すれば、入学者減少ではなく増加という結果を得ようとしていることは、本学の広報戦略としての的を射たものであったと考えている。

平成25年度の入学生を得るための平成24年度学生募集活動は、今年度募集戦

略を継承し、これまでの学生募集・入試広報に関するデータを総括したうえで、新企画を立案し実行していく予定である。

就職状況が受験生に与える影響は多大なものがあるが、キャリアサポート部と高大連携推進室とのさらなる連携を図り、短期大学部の学生募集に関しては、学科教員と密なる打ち合わせを行い、四大、短大の枠組みを越えた全学規模で学生募集にあたらなければならない。

## ② 平成24年度入試広報部の事業計画基本方針

- イ 地元重視
- ロ 対面説明会への積極参加と誘致
- ハ 出張講義の積極的参加
- ニ 費用対効果の高い広告媒体へのシフト・業者の精選
- ホ 進学提携高校の新規開拓
- ヘ 指定校推薦認定高校の継続と認定数の見直し
- ト 入試制度の見直しと出願数増加のための新企画
- チ 高大連携推進事業の拡大

入学生の75%が推薦入試、AO入試受験者で締めていることを考慮すると、夏休みまでの高校訪問、オープンキャンパスを重要視することは言うまでもない。また教員派遣による模擬講義の回数の多さが、次年度の受験生に大きな影響を与えることが昨年、今年の結果で明らかであり、今後も模擬講義への教員派遣を充実させていきたい。教員との協力体制は非常に良い関係を築いている。

## ③ 短期大学部の学生募集

短期大学部の学生募集活動は四大とほぼ同様であるが、より鮮明に地元重視であり、夏休みまでに集中する。

また、学科教員との連携をより密にして、オープンキャンパスプログラムの見直しを進めている。

## ④ 東海第一幼稚園・東海第二幼稚園

- イ 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科、東海学院大学短期大学部児童教育学科との連携による、子育て支援等の社会的活動を実施する。
- ロ 東海学院大学地域サポートセンターの食育支援による、「食育」及び給食内の充実を図る。
- ハ ダイレクトメール、新聞折込、ポスター掲示、ホームページなどによる多様な情報展開する。
- ニ 保護者（在園・卒園児）の協力も得て、募集活動を推進する。

- ホ 「ちびっこ広場アイアイ」・「きつずクラブ」の遊びの会の充実、園庭開放や各種行事に地域住民の参加を積極的に呼びかけていく。
- ヘ 未就園児を対象としたイベントを開催する。短大・児童教育学科・専門講師の協力を仰ぎ、その他外部講師を登用する。
- ト 携帯を使ったメールシステム『E通信』を活用する。
  - ・在園児には、行事の写真を添付し様子を知らせる。
  - ・未就園児には、催し物の情報を知らせる。
- チ 各学期末にフォト新聞をクラス毎に刊行し、保護者に配布する。

#### 4. キャリアサポート体制

##### ① キャリアサポート体制方針

- イ 国際社会経済の激しい変化の中で学生の進路を幸せな方向に舵を取り船に乗せられる学生支援を行う。
- ロ 学生が気楽に相談できる就職進学相談窓口としての個人別カウンセリングを通じ卒業までの支援を行う。

##### ② 平成24年度キャリアサポート部の事業計画基本方針

- イ 就業力育成TGセミナー2年目の開講  
全学年対象にキャリア教育実施、就職内定率90%以上を確保
- ロ 専門家カウンセラーによる就職進学相談窓口設置  
個別相談指導による就職進学支援
- ハ 事業所、施設訪問による本学の知名度アップを図る  
教職員の訪問によるコミュニケーションづくり
- ニ 地元は勿論、地域イベント、企業説明会等の催しには積極的に参加する  
学生、教職員に周知し関係学部の協力を得る
- ホ 部内勉強会、外部研修会への積極的な参加により、職員のスキルアップを図る
- ヘ 学内でのミニ企業説明会を年間通じて開催する  
学生、教職員に周知し関係学部の協力を得る
- ト 学内外で4年生対象の就職研修会を年間通じて開催する。  
研修場所を学内や外部研修センターを借り開催する
- チ 四大4年生、短大2年生の保護者と教員、キャリアによる懇談会開催  
外部講師を招聘し担任、ゼミ担当教員を含めセミナー方式で開催する
- リ 就活かわら版を2カ月に1回発行する

#### 5. 施設・設備の整備について

##### ① 東海学院大学

- ・本館女子トイレ改修

- ・構内外灯整備事業
- ・構内山林区域整備事業
- ・非常放送設備改修工事
- ・本館井水効果水槽取替工事
- ・空調機改修（複数教室 学食）  
（随時必要に応じ、建物・設備の改修を進める予定。）

② 東海学院大学短期大学部

- ・7号館防水工事のための事前調査（本工事は平成25年度以降を希望）
- ・建物及び設備の老朽化に伴う補修工事
- ・空調機の老朽化に伴う修繕
- ・緑化整備工事
- ・事務局内パソコンの更新
- ・プロジェクター設置教室への遮光カーテン取り付け
- ・第一事務局、食堂の空調機洗浄（平成21年度から継続検討）
- ・新3号館2階屋上防水補修工事（平成21年度から継続検討）
- ・ピアノ練習室 ドア止め設置・壁補修（平成21年度から継続検討）
- ・第3スポーツ寮浴室の改修（平成22年度から継続検討）
- ・昭和時代の卒業生データの電子化に伴う費用（教学部より、平成22年度から継続検討）

※ 建物関係耐震補強工事については、本部との話し合いが必要

③ 東海第一幼稚園

- ・玄関先庭園の改修
- ・ヤギ小屋の改修
- ・階段、通路、事務室のカーペットの張り替え
- ・空調機1台の設置、ただし修理不能の場合に限る

④ 東海第二幼稚園

- ・園庭手洗い・足洗い場改修工事
- ・保育室改修工事
- ・給食室改修工事
- ・その他の建物・施設関係の改修工事

## 6. その他

授業料等について

① 東海学院大学

大学院

入 学 金	200,000	(前年	200,000)
年額 授 業 料	500,000	(前年	500,000)

	年額	教育充実費	220,000	(前年	220,000)
		計	920,000	(前年	920,000)
健康福祉学部		入 学 金	230,000	(前年	230,000)
総合福祉学科	年額	授 業 料	640,000	(前年	640,000)
	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,290,000	(前年	1,290,000)
食健康栄養学科		入 学 金	230,000	(前年	230,000)
	年額	授 業 料	680,000	(前年	680,000)
	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,330,000	(前年	1,330,000)
人間関係学部		入 学 金	230,000	(前年	230,000)
〔心理学科〕	年額	授 業 料	640,000	(前年	640,000)
〔子ども発達学科〕	年額	教育充実費	420,000	(前年	420,000)
		計	1,290,000	(前年	1,290,000)
② 東海学院大学短期大学部		入 学 金	180,000	(前年	180,000)
児童教育学科	年額	授 業 料	580,000	(前年	580,000)
〔初等教育専攻〕	年額	教育充実費	300,000	(前年	300,000)
〔ジュニアスポーツ教育専攻〕	年額	施設設備費	160,000	(前年	160,000)
		計	1,220,000	(前年	1,220,000)
③ 東海第一幼稚園					
④ 東海第二幼稚園					
		毎月の保育料等			
		保 育 料	24,885	(前年	24,885)
		教育充実費	7,900	(前年	7,900)
		教 材 費	1,995	(前年	1,995)
		計	34,780	(前年	34,780)

以上